

【ミッションステートメント】「いっしょに歩こう！プロジェクト」～日本聖公会東日本大震災被災者支援

- ① わたしたちは、東日本大震災により困難を負って生きる人々に敬意を払っていっしょに歩きます。
- ② わたしたちは、被災地の方々の生活と地域の再創造に向けていっしょに歩きます。
- ③ わたしたちは、主イエス・キリストが、共に歩いてくださることに励まされていっしょに歩きます。

撤収ボランティアが行われ、撤収作業を終えた鈴子町の釜石被災者支援センターは、その働きに幕を下ろしました。北海道教区の東日本大震災支援室も、9月末をもって一区切りとなります。今回は最終号として、撤収ボランティアの様子と、支援室長からのごあいさつをお送りします。

【支援センター撤収ボランティア】

9月24日(火)～28日(土) (現地での活動は25日(水)～27日(金))の日程で、釜石被災者支援センターの撤収ボランティアが派遣されました。今回作業を行ってくださったのは、大町司祭・吉野執事、札幌キリスト教会より齋藤静信さん、帯広聖公会より尾関敏明さん、小貫耕喜さん、高橋献一さん、斉数貴さんの7名です。

2階にあった大きな冷蔵庫や布団類はともかく、どこにこれだけのものがしまっていたのかと思うほどのものが出てきました。多くの方が寝泊りした場所も空になり、少しの寂しさのある撤収ボランティアとなりました。

今回参加された方の中から帯広聖公会の高橋献一さんに原稿をいただいていますので掲載いたします。

【ボランティアに参加して】

帯広聖公会 高橋献一

私達は、今回札幌班3名、帯広班4名の陣容にて大町司祭の指揮のもと、主に釜石被災者支援センターの閉所作業を行って来ました。幸い天候にも恵まれ25日午後から27日午後までピッシリと動き回りましたが、自然と若くて馬力のある人は荷物の移動運搬専従となり、そうで無い人は掃除、後片付け、整理整頓を担う事となり、チームワークが良かったことも重なり当初のスケジュールを前倒しにして進めておりました。しかしながら、やっておかぬばならない事は次から次と出て来るもので、結局は帰りの時間ギリギリまで動き回る事となりました。でも最後に目いっぱい奉仕でき満足しています。

一方、過去2年間のセンターの支援活動を基礎とした地元ボランティアを主体とした活動が既に始動しており頼もしく感じました。私自身、今後も自分の出来得る形で被災地支援を続けて行きたいと思っています。

【皆様の今までの深き祈りと貴い愛のわざを心より感謝申し上げます。～支援室の活動終了にあたって～】

支援室長 司祭 飯野正行

3・11の10日後すぐに仙台に先遣隊が派遣され4日間の活動を終え、帰道2週間後の4月7日に、1か月ごとの滞在の形での釜石への聖職派遣がスタートいたしました。5月には「いっしょに歩こうプロジェクト」がスタートし、その年の夏に「釜石被災者支援センター」が与えられ、センター長としての海老原祐治氏の着任により、その働きは大きく前進いたしました。2年間という活動計画の故に、「プロジェクト」は今年の5月に終了し、8月にスタートした「センター」は今年の8月にその活動を終了。9月いっばいで残務整理・撤収作業を行い完了いたしました。そして、この9月末をもって「日本聖公会北海道教区東日本大震災支援室」の活動を終了することが、教区主教・常置委員会のもとに確認されました。今までの皆様の祈りと愛の労苦を心より感謝申し上げます。「支援室」が終了いたしましたので「支援室長」としての任務も終了した事になります。また、この「支援室ニュース」も51号までお届けいたしました。今回の「最終号」をもって終了となります。

この2年間の海老原氏の存在と働きには、とても大きなものがあります。被災地におられる痛みを負う方々にとって希望の灯でした。彼は引き続き釜石に留まり、この間の働きを通して誕生した市民ボランティアグループの方々と共に活動を続けられます。心からの感謝と主のみ守りと祝福を祈ります。

北海道教区としての今までの釜石での支援活動は終了となりますが、教区として「災害対策」のための「窓口」的部署を設け、その担当を、教区事務所主事（現在横山明光司祭）が担当する事も確認されています。

支援室のメンバーにも感謝いたします。大町司祭・吉野執事・山岡さん・尾崎さんを始め、ご奉仕いただいた一人ひとりに感謝いたします。吉野執事はこの支援室ニュースをウルトラ・ハイスピードで打ち続けてくださいました。

(近日中にメンバーの感謝会を持ちたいと願っておりますので、メンバーの方々にはよろしくお願ひします)

また、今まで釜石に行ってくださったすべての聖職・信徒の方々にも感謝いたします。また、聖職派遣にしても、信徒の皆様のボランティアにしても、教会やご家庭が祈りの内に送り出してくださったからこそ出来たご奉仕でありました。また、直接、釜石へは行く事が出来なかったけれども、その深い愛の祈りで支えてくださった数えきれない方々がおられるのであって、その方々にも、心より感謝申し上げます。

私（飯野）は、もう「室長」ではございませんが、報告文書等の関係もあり、教区会までご奉仕させていただきますので、よろしくお願ひいたします。

ありがとうございました。

【震災支援室より】

支援室ニュースは、各教会において掲示下さると共に、増刷して配布ください。